

閑散としているコンサート等に対して、引率できる保護者的な立場の人と子供をマッチングできるサー

目 概要

文化芸能と子どもをマッチングさせ、動員数を増やすサービス。

コンサート側は余り席を削減することができる。

貧困家庭の子供に席を格安/無料で提供する。

その子供を引率する大人にも割引でチケットを提供する。（ひとり親家庭でも利用可能にする）

その大人-子供もともにマッチングさせるサービス

- ・貧困家庭のこどもとは相対的貧困にある家庭を対象とする。
貧困家庭のこどもはそうではない家庭において受けられる生活における機会体験が不足している。
具体的には夏休みに旅行に行けなかったり、週末の休日に家族と出かける経験がない。その経験をカバーする。
- ・引率する大人の安全性へのスクリーニングはマイナンバーカードや住所などを登録する。事前にビデオ通話などで面談を行う。

解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

- ・こどもの貧困による機会損失を避ける。
- ・コンサート側は席が埋まり全く席が売れない状況を回避できる。

解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

- ・マッチングについて：アプリやWEBサイトなどを立ててマッチングするサービスを作る。
- ・マッチングの基準：対象のコンサートに参加することができ、参加側双方の合意が取れる。
- ・安全性の問題について：大人側の身元を公的証明書などで明らかにすることで回避する。
- ・サービス提供側の利益：SDGsに貢献することができ、企業として付加価値が生まれる。
また参加したこどもの属性や地域などの個人情報抜いたデータ提供を企業に対して行うことで利益を徴収する。
席が埋まることで満員御礼などの価値がつく。

類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

検索した限りでは見つかりませんでした。

有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

検索した限りでは見つかりませんでした。

実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

- ・マッチングシステムの開発
 - 利用者の初期登録
 - 引率する大人側は子供の安全性確保のため住所など公的証明書を登録する
 - こども側の要件も決定する
 - 利用条件の策定
 - こども側の検索機能（安全機能）
 - ※小学生までの子供は基本的に保護者が検索、登録を行う
 - 大人側の検索機能
 - 開催日別の検索機能、対象の子供の属性の確認等
- ・コンサートの選定方法（応募式か営業）
- ・サービスの周知
- ・文化庁との交渉
 - ・文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業）では18歳未満の子供に対する政府からの補助金がある。
子供を対象に利用する。
https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/93682001.html
- ・既存のサービスであるクラシックコンサート プレゼントなどともマッチングできるように活用する。
<https://www.concertsquare.jp/concert/search/gift>

課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

- ・親以外の引率の大人を確保する。
 - マッチングアプリでマッチングする人材を確保する。
 - 引率する大人にはチケット無料化や割引を適用するといったメリットがあることを強調し募集を行う。
- ・余り席を減らす方法
 - 事前に本サービスで提供する席のチケットを文化芸術振興費補助金が出ることやSDGsに貢献できるといった交渉を行い、事前に余り席分を確保する
- ・適切に子どもたちにチケットを届ける仕組み
 - チケット使用上限に回数を設けて幅広く子供が利用できるようにする。
 - 一般家庭や養護施設の児童支援施設の子供を対象とする。

期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

初期費用

基本開発：約500万円

AI開発：約500万円

開発期間：数ヶ月程度

(ジモティーのようなアプリ、サービスを参考)

運用費用：

月約100万円

未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

- ・主なターゲットは貧困家庭のこどもと引率したい（子供を支援したい立場の）大人
- ・貧困家庭のこどもは文化・芸術における機会損失を回避でき、人生の選択肢を増やすことができる。また、引率してくれる親以外の大人へ触れることで、社会に対する安心感を生成できる。
- ・引率したい（子供を支援したい立場の）大人はコンサートに参加することができ、社会貢献が行える。
- ・コンサートが閑散とする理由としては機会がない、またファンがないことが考えられる。
 - 子どもたちに芸術に触れてもらう機会をつくることで将来的なファンを増やす。子どもたちは大人になれば社会へ還元する。
- ・子供を支援したい大人たちはコンサートに参加でき、さらに子供の支援をすることができる。